

～防災知っ手帖～

発行：郷地・東町連合自治会 会長 志村和亮

防災部 鈴木祥平、上田憲浩

「防災知っ手帖」を読んでいますか！

昨年7月に**防災知っ手帖**第1号を発行して以来今回で4号になります。これまで配布された**防災知っ手帖**は手元にありますか？ まさか見たことがないとか、見た後捨ててしまったとかしてませんよね！ あなたとあなたの家族を守る重要なヒントが書かれています。ぜひ探し出して読んでください。

昨年12月にNHKでは首都直下地震の危機意識を高めるTV番組を1週間にわたり放送しました。もしこれを見ていて「当地域では関係ない話だ」と思ったら大きな勘違いです。**当地域では立川断層帯地震の可能性**があり、身近に大地震の可能性を秘めているのです。



自分の危機意識をチェックしてみよう

この1年以内に、大地震や大きな風水害に備えて、自分が行った具体的な行動をチェックしましょう。
以下の項目にチェックを入れてみて下さい。

- ☐ **防災知っ手帖**の第1号～3号を読んだ
- ☐ 東京都の防災ブック「**東京防災**」を読んだ
- ☐ 防災に備えるアクションを一つ以上実行した
- ☐ **家具の配置見直し、家具転倒防止策、家庭内備蓄**
- ☐ **食料備蓄**は最低何日分必要か知っている
- ☐ 自宅の耐震について認識した（**耐震基準**を理解）
旧耐震基準とわかった家では耐震診断を検討中
- ☐ **安否確認プレート**を自宅玄関付近に置いてある
- ☐ 大地震の際の**一時集合場所**がどこか知っている
- ☐ 地域の**防災訓練・セミナー**に時々参加している
- ☐ 昭島市の**情報メール**を携帯で受信する設定をした
- ☐ 大地震、風水害、などの災害時の行動について**家族で話し合い**をした。

どのくらいチェックマークがついたでしょうか？

マークが半分以下の人はぜひ**防災知っ手帖**を探し出してよく読んで下さい。

一時集合場所、一時避難場所、避難所

大地震が発生し、火災や自宅倒壊の危険がある場合は、**一時集合場所**に移動し危険を回避します。大規模火災が発生するなど一時集合場所に危険が及ぶ可能性がある場合は**一時避難場所**に移動します。

一方、大きな揺れや火災が収まった後でも、自宅に住めない状況になってしまった場合は**避難所**に移ってそこで一時的に生活をします。

各自治会ごとにそれぞれ場所が決まっているので覚えておいてください。ただし、予め決められた場所が安全ではなくなっている事態もありますので、よく状況を把握して臨機応変に対応して下さい。

	一時集合場所	避難所
郷地第一自治会	大六天社	共成小学校
郷地第二自治会	郷地倶楽部前	共成小学校
郷地第三自治会	昭和公園東側	東小学校
五月自治会	五月自治会集会所前	東小学校
東町第五自治会	東町第五自治会館前	東小学校
東町東町会	東町児童遊園	東小学校
東町親睦会	東町一丁目児童遊園	東小学校
東町中央自治会	昭和公園南東側角	東小学校
昭島団地自治会	あおぞら公園	共成小学校
郷地住宅自治会	郷地住宅集会所前広場	共成小学校
郷地玉川自治会	郷地玉川集会所前広場	共成小学校

昭島市の備蓄について

立川断層帯地震が発生した場合、昭島市内だけで約3万人の避難者が発生すると想定しており、3万人分×3日分の物資・食料を備蓄しています。

しかし避難所に指定している小中学校の簡易備蓄倉庫に保管されているのは、とりあえず一昼夜しのぐ為のものであり、その間に昭島市内9か所の備蓄倉庫から不足分を輸送することになっています。

避難所での生活

避難所では、各学校の体育館や校舎内教室などで共同生活になります。自宅とは異なり、かなり不便な生活になりますので、なるべく自宅避難ができるよう各自で事前の対策をして下さい。

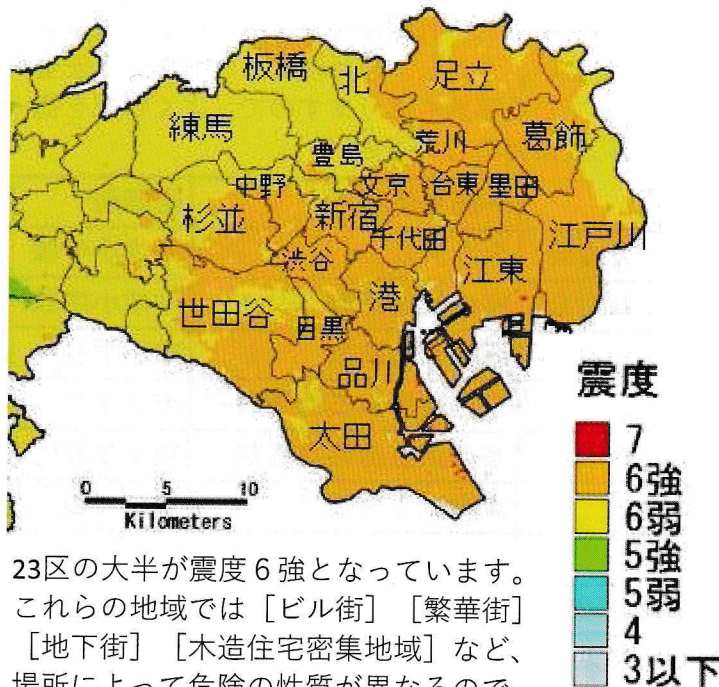
避難所の運営は避難者が共同で行うものです。避難所訓練に積極的に参加したり、避難所運営委員会の情報にも関心を持っていただき、いざというときに避難者が一丸となって避難生活を乗り切れるようにしたいものです。

都心に外出している時の地震対策

これまで、防災知っ手帖では、おもに当地域に立川断層帯地震が発生した場合を想定してその被害予測や対策などについて情報提供してきました。

しかし、勤務先や外出先で地震に襲われる可能性もあります。多くの勤務先では一定程度大地震への対策はされていると思われますが、買い物や食事等で外出した場合が一番対策されていません。その場合についても考えてみましょう。

東京湾北部地震(M7.3)が発生した場合の震度分布



23区の大半が震度6強となっています。これらの地域では「ビル街」「繁華街」「地下街」「木造住宅密集地域」など、場所によって危険の性質が異なるのでどの様に行動するかを事前に考えておきましょう。

◇ 職場で地震にあったら

職場では倒れやすい備品の固定や備蓄等の対策を行っているところもありますが、対策がされていないところもあるようです。自分の勤務先の対策状況を確認しておきましょう。もし対策されていないようであれば必要なものをロッカー等に入れておきましょう。

オフィス街などビルの多い地域では窓ガラスが割れて落下したり、外壁タイルが落下したりすることがあります。あわてて外に出ると危険です。

◇ デパート・スーパーで地震にあったら

エレベーターホールや比較的商品の少ない場所、柱付近に身を寄せましょう。ガラス製品などの落下や転倒に注意しましょう。頭を保護するカバンなど持っていない場合は買い物かごをかぶって保護しましょう。

あわてて出口に殺到せず、係員の指示に従いましょう。エレベーターは使わず階段で避難します。

◇ 地下街で地震にあったら

停電になっても非常照明がつくまで動かない。

地下街では60メートルごとに非常口が設置されているので、一か所に集中しない（人が集中しているところでは押されて転倒し、一度転倒するとなかなか起き上がれない等の危険があります）。

帰宅困難者対策

東京湾北部地震が夕方6時に発生した場合に、都内では約517万人の帰宅困難者が発生すると想定されています。

それに対して学校や職場などに三日間待機する「一斉帰宅の抑制」を推進しており、その結果行き場のない帰宅困難者は約92万人になると推計されています。

むやみに移動・帰宅しない

東日本大震災のときは多数の帰宅困難者が一斉に帰ろうとして道路や歩道が人であふれてしまいました。もし実際に震度6強の地震が発生したら、緊急車両が動けず被害が拡大するばかりか、余震等で二次被害に遭う可能性も高くなります。

一時滞在施設

買い物客等の行き場のない帰宅困難者の為に都では一時滞在施設の確保を進めています。

都心方面に外出する際はその付近の一時滞在施設がどこにあるのかを確認しておきましょう。

災害時帰宅支援ステーション

揺れが収まっても鉄道・バスは、すぐには再開できないと思われます。その場合、情報収集をしっかりとった後、歩いて帰宅する選択肢もあります。

その時は災害時帰宅支援ステーションのことを思い出しましょう。コンビニ等で徒歩帰宅者の為に水やトイレを提供しています。



東京都防災マップ



外出の前に、自分の行先周辺にある一時滞在施設や災害時帰宅支援ステーションの場所を調べることができます。



<https://map.bousai.metro.tokyo.lg.jp/>